

当館所蔵の幻灯板ガラス写真

木曾山林資料館

1. はじめに

幻灯とは、板ガラスに描いた風景画や写真などに強い光を当て、レンズを利用して映写幕に拡大して映して見せる仕掛けで、明治 20 年(1887)頃より各地で幻灯会が開催され、学校では視聴覚教材としても利用された。幻灯板ガラス写真は、幻灯に用いる写真を焼き付けた板ガラスのことで、当館は 20 枚を所蔵している。

木曾山林学校では、明治 35 年(1902)の校友会例会において幻灯会を開催し、木曾・外国などの林業に関係した幻灯板ガラス写真を使って説明していた。

2. 幻灯板ガラス写真の仕様

当館所蔵の幻灯板ガラス写真は、大きさ 8cm×10cm で、2 枚の板ガラスを重ねて、その縁を細い布(仮に縁布とする)で貼り合わせて固定している(写真 1)。また、幻灯板ガラス写真の表面には、写真の題名を示す紙面が添付されているが、判読ができない箇所がある。

板ガラスに写真を焼き付けし、画像の空と水面は青色、樹木は緑色、木材は茶色等で彩色している。

経年劣化により、縁布が剥がれた箇所、板ガラスの汚れや割れがある。

重ねた板ガラスの内側には、遮光用と映写時の画面サイズを調整する中抜き(約 5.3cm ×約 6.8cm)の紙(仮に縁取り紙とする)が挟み込まれ、表の縁取り紙は黒色で遮光用となっている(写真 1、写真 2)。

幻灯板ガラス写真裏面の縁取り紙に、製造元「鶴淵製」の押印がある(写真 2)。東京浅草の鶴淵幻灯舗(鶴淵写真館)は、明治 13 年(1880)に、文部省から全国の師範学校への頒布を目的として幻灯スライドの製作依頼を受け、教育的な内容のスライドを数多く製作した。

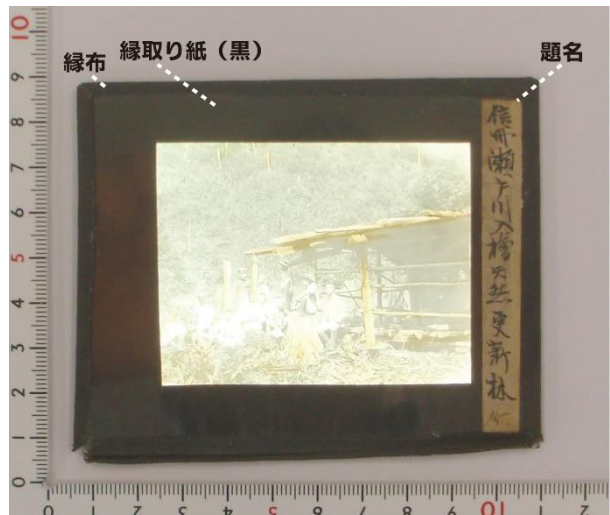


写真 1 幻灯板ガラス写真 (表面)

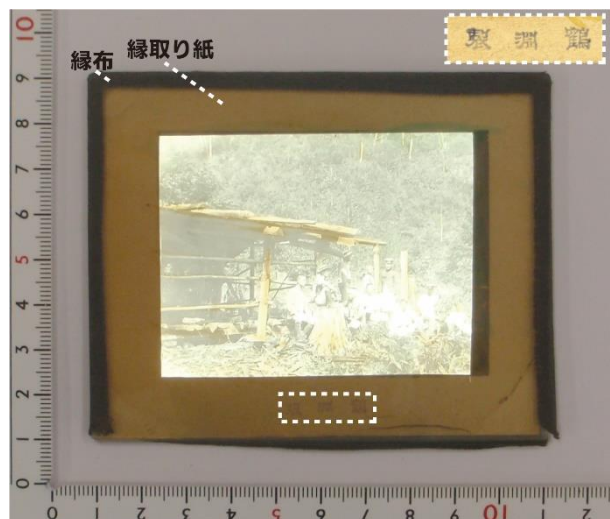


写真 2 幻灯板ガラス写真 (裏面)

3. 幻灯板ガラス写真と幻灯会

現存する幻灯板ガラス写真 20 枚の題材は、木曾御料林 3 枚、木曾風景 1 枚、京都北山 2 枚、中国福建省 14 枚である（表 1、写真 3）。

明治 35 年(1902)9 月 13 日の校友会例会後の午後 8 時から午後 9 時 30 分まで幻灯会を開催している。ドイツ・中国の森林写真、吉野・京都北山、帝国大学の林科実習地、木曾森林（御料林）の伐木運材など、森林に関する幻灯を会員（教師と推測）が説明し、「^{われわれ}実に吾々にとって有益且つ愉快であった」が感想。

この幻灯会が、木曾山林学校における唯一の幻灯の記録であり、実際に保有していた幻灯板ガラスの種類や枚数等は不明であるが、現存する幻灯板ガラス写真は、この幻灯会で映写されたと推測する。

表 1 幻灯板ガラス写真の一覧

No.	題名（原文のママ）	分類	適用
1	信州瀬戸川入檜天然更新林	木曾御料林	現王滝村瀬戸川国有林
2	信州木曾阿寺入「のらさで」	木曾御料林	現大桑村阿寺国有林 「のらさで」木曾式運搬法の一つ
3	信州木曾御料局阿寺事務所前	木曾御料林	現大桑村阿寺国有林
4	信州大桑村木曾川の吊籠渡し	木曾風景	
5	京都北山台杉ノ初代	京都北山	
6	京都府下北山丸太運搬	京都北山	
7	閩江ノ筏流下し	中国	
8	閩江ノ筏	中国	
9	閩江（南平）十八“底連”ノ筏	中国	
10	閩江ノ筏流下し	中国	
11	延平府南平廣葉杉林	中国	
12	延平府南平廣葉杉林	中国	
13	安平附近ノ天然林	中国	
14	尤溪縣犬排廣葉杉林相ノ変化	中国	
15	尤溪縣□頭ヨリ新植地ヲ望ム	中国	□判読不能
16	尤溪縣九鯉潭ニテ写ス	中国	
17	福州松の□板□長三十二尺厚六七寸巾二尺乃至三尺	中国	□判読不能
18	福州馬尾戎克船	中国	
19	□□□外艫舳□□□衛森□木行□斧ブナ□ 鉤カオ□鋸キョン	中国	□判読不能
20	□□□観音山ヲ望ム	中国	□判読不能



No, 1



No, 2



No, 3



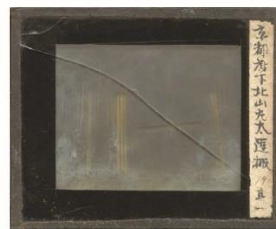
No, 4



No, 5



No, 6



No, 7



No, 8



No, 9



No, 10



写真3 当館所蔵の幻灯板ガラス写真



No,11



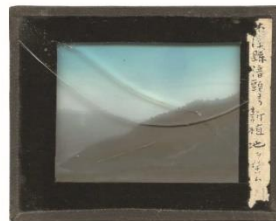
No,12



No,13



No,14



No,15



No,16



No,17



No,18



No,19



No,20



写真3 当館所蔵の幻灯板ガラス写真